

学習評価 FIRST STEP ―小学校図画工作科―

1 学習評価は何のため？

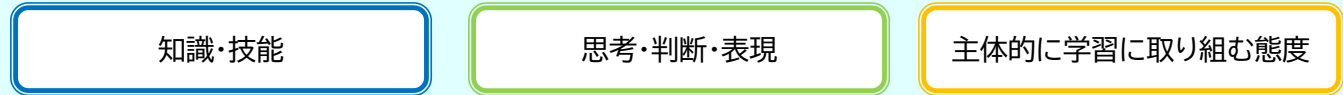
学習評価は、子供たちが「できるようになる」ためにあります。子供の学習状況を適切に見取り、児童の学習改善や教師の指導改善に生かすことが大切です。



2 学習評価の考え方

(1) 評価の観点

育成を目指す資質・能力の三つの柱を踏まえ、以下の3つの観点で評価を行います。



(2) 観点別学習状況の評価の総括について

観点別学習状況の評価を基に、評価の総括を行います。総括では、「知識・技能」では「知識」と「技能」を、「思考・判断・表現」では「思考・判断・表現(発想や構想)」と「思考・判断・表現(鑑賞)」を考え合わせて総括することになります。

3観点 【観点別学習状況の評価の総括の例】

観点	記録に残す評価	総括
知 識	B	A
技 能	A	
思 考・判断・表現(発想や構想)	B	B
鑑 賞	A	
態 度	A	A

※「技能」と「思考・判断・表現(発想や構想)」の観点に重点を置いて、評価の総括を行う場合

左の例では、評価の観点を重点化して、評価の総括を行っています。重点化しなかった「知識」と「思考・判断・表現(鑑賞)」については、年間指導計画上の題材の位置付けを考慮して、二つの観点を評価する題材を今後設定していきます。

また、評価の観点を重点化せずに、評価を行う場合もあります。記録に残す評価の回数に応じて総括するなど、あらかじめ基準を立てておくことが大切です。



3 3観点において評価すること

各観点において評価することは次のとおりです。

知識・技能	【知識】 材料や作品、出来事などを形や色などの造形的な視点で捉え、自分の感覚や行為を通して理解し、表すことにつなげているか。※ 形や色の概念を形成する。	【技能】 材料や用具の特徴を生かしながら、表し方などを工夫して、自分らしくつくったり表したりしているか。※ 豊かな思いに基づいた「思考力、判断力、表現力等」とともに働いて、初めて発揮される。
思考・判断・表現	【発想や構想】 形や色などを基に想像を膨らませたり、造形的な活動や表したいことを思い付いたり、どのように活動したり表したりするかを考えているか。	【鑑賞】 作品などの造形的なよさや美しさなどについて、見たり触ったり話したりすることで、自分の見方や感じ方を深めているか。
主体的に学習に取り組む態度	「知識及び技能」を習得したり、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているか。 —具体例— ・材料を見たり触ったりしながら、どんな形ができそうか考えることに進んで取り組もうとしている。 ・黄緑色と水色の和紙を使って花の形をつくり、重ね合わせて新たな形になるようにしている。 ・表したい形になるように、手を動かして何度も和紙を握ったり折ったりして、いろいろな花の形を試しながら工夫して表すことに進んで取り組んでいる。	

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 図画工作編、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(小学校図画工作)』を基に作成

4 学習評価の機能

○指導に生かす評価

児童一人一人の学習状況を把握し、児童の学習改善や教師の指導改善につなげるための評価のこと

※[指導に生かす評価]の場面は、随時存在します。児童の学習状況を把握し、「おおむね満足できる」状況(B)以上になることを目指して、必要な指導を適宜行います。

◎記録に残す評価

観点別学習状況の評価を総括する際の資料となるよう、学習状況を記録する評価のこと

※[記録に残す評価]の場面は、毎時間設定する必要はありません。記録に残す場面を精選することが重要です。題材のまとまりの中で、評価規準に照らして、児童の観点別状況を把握し、記録します。

評価資料の収集や評価方法の工夫として、次のようなものが考えられます。

- ・観察(児童の動き、視線、発話) ・対話 ・フィールドマップ ・座席表
- ・ワークシート ・ポートフォリオ ・作品カード ・作品(途中経過も含む)
- ・デジタルカメラ ・タブレット 等

ポイント

形として残る作品だけで評価せず、つくる過程における児童の活動の様子を観察し、問い掛けたり声掛けしたりしながら児童の思考や行為を見取ります。多様な方法を用いて、適切な場面を捉えて評価していきます。題材のまとまりの中で適切に評価を実施できるよう、指導と評価の計画を立てる段階から、計画的に評価の時期や評価方法等を考えておくことが必要です。



5 題材の指導と評価の計画

参考事例 第5学年「〇〇な光の形 ～光と白いスポンジを組み合わせで表そう」(全3時間)

時間	●学習のねらい ・学習活動	知	技	思 発想や構想	鑑賞	態	留意点等
1 ・ 2	●形や色、動き、バランス、色の鮮やかさなどを基に、自分のイメージをもち、メラミンスポンジに光を当てたり形を変えたりしながら感じたことから、表したいことを見付け、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じを考えながら、どのように主題を表すかについて考える。 ・LEDライトの光やメラミンスポンジ、カラーストロウを使って、立体に表す。	○観察 対話 ワークシート	◎観察 対話 作品 ワークシート	◎観察 対話 作品 ワークシート			「知識」については、光や材料、材料同士の組合せなどから主に発想や構想をすることから、「思考・判断・表現(発想や構想)」に関連させます。児童の活動の様子を観察する、問い掛けるなどして児童の学習状況を把握し、適宜、 指導に生かします。
							「技能」については、観察する、問い掛ける、ICT機器を用いて記録する、ワークシートを用いるなどして、「思考・判断・表現(発想や構想)」と関連させて全員の学習状況を把握し、 記録に残します。
							「思考・判断・表現(発想や構想)」については、観察する、問い掛ける、ICT機器を用いて記録する、ワークシートを用いるなどして全員の学習状況を把握し、 記録に残します。
3	●自分や友達の作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。 ・主題を伝え合い、作品を相互に鑑賞する。	◎観察 対話 作品カード ワークシート		◎観察 対話 作品カード ワークシート		◎観察 対話 作品カード ワークシート	「知識」については、「思考・判断・表現(鑑賞)」と関連させて、観察する、問い掛ける、ICT機器を用いて記録する、ワークシートを用いるなどして全員の学習状況を把握し、 記録に残します。
	 児童作品より  相互に鑑賞する児童						「思考・判断・表現(鑑賞)」については、観察する、問い掛ける、ICT機器を用いて記録する、ワークシートを用いるなどして、全員の学習状況を把握し、 記録に残します。
							「主体的に学習に取り組む態度」については、活動を通しての観察、授業後や題材終末の振り返り、ICT機器を用いた記録、ワークシートを用いるなどして、全員の学習状況を把握して 記録に残します。

※「○」…題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす[指導に生かす評価]。

「◎」…題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し記録に残す[記録に残す評価]。



学習評価の詳細については、佐賀県教育センターHP「[学習評価の進め方](#)」を御参照ください。

